

平成16年 3月19日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田良一

生命・食料・環境に関するバイオテクノロジー最新情報を提供

「日本農芸化学会2004年度大会」(参加予定者数:6000人)が、広島大学東広島キャンパスで3月28日(日)から31日(水)に開催されます。この中で本学の研究者が別紙のとおり、新発見や世界初の解析法など発表するとともに、ホットな話題も提供します。

つきましては、開催に先立ち、下記のとおり記者会見を行いますので、ご案内いたします。

記

日時 平成16年3月24日(水) 15:00～15:40
場所 広島大学 先端科学総合研究棟 4階 405N

(参考)

「日本農芸化学会2004年度大会」については、下記のホームページをご覧ください。
http://www.hiroshima-u.ac.jp/category_view.php?id=218&fnm=sch&lang=ja

【お問い合わせ先】

広島大学大学院先端物質科学研究科
教授 山田 隆

TEL:(082)424-7752(ダイヤルイン)

E-mail: tayamad@hiroshima-u.ac.jp

[発信枚数;A4版 2枚(本票含む)]

[資料](#)

生命・食糧・環境に関するバイオテクノロジー最新情報を提供

生命・食糧・環境に関するバイオテクノロジー最新情報を議論する。「日本農芸化学会2004年度大会」が広島大学東広島キャンパスで2004年3月28日(日)から3月31(水)に開催されます。大会実行委員長を広島大学大学院生物圏科学研究科佐藤清隆教授がつとめます。

この中で、広島大学大学院先端物質科学研究科黒田章夫助教授が「微生物のポリリン酸研究の新展開」と題した農芸化学奨励賞の研究発表をします。また、宮川都吉教授のグループが細胞増殖制御に関わるS-アデノシルメチオニンの重要性に関する新発見の発表をします。広島大学大学院理学研究科の月向邦彦教授は、真空紫外円二色性スペクトルによる生体分子の構造解析と題して、広島大学放射光科学研究センターのビームライン15を光源とした水溶液中でのCDスペクトル解析法を世界で初めて開発し、生体分子構造を解析した結果を発表します。学外からも「脳内エストロゲン受容体による不安・攻撃行動の制御」、「ジャポニカ型イネデンプンをインディカ型に変える遺伝子」、「ワサビ由来 isothiocyanate による神経細胞分化誘導」等々の発表があります。

これに関する記者会見を3月24日(水)15:00より
広島大学先端科学総合研究棟405N(4階)で行います。

またこの記者会見の席上、当大会に付随した企画として行われる「化学と生物シンポジウム」についての紹介もします。このシンポジウムでは九州大学教授都甲潔氏による「味センサー」、広島大学教授佐藤清隆氏による「味の設計」、農業生物資源研究所・北里大学教授服部正平氏による「ゲノムから見たヒトとチンパンジーの違い」のホットな話題が紹介されます。

連絡先 : 広島大学大学院先端物質科学研究科 教授 山田 隆
Tel/Fax : 082-424-7752 E-mail : tayamad@hiroshima-u.ac.jp